

教育学部教育学科 学校教育コース

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

教育学部学校教育コースは、社会の急激な変化の中で、子どもを取り巻く多様な現代的課題に幅広い視野で俯瞰的に捉え、子ども一人一人に適した学びと協働的な学びの在り方を追究します。

未来を拓く子どもたちのために、教育者としての専門的知識・技能の修得、省察と研鑽による実践力・指導力の向上を図り、子どもの成長と発達を促す支援やケアのあり方を生涯にわたって学び続け、「いい先生」とは何かを問いながら、地域社会や学校等にて、協働の力、ファシリテーション力を発揮して活躍できる小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の各学校種の教員および養護教諭の養成を目的とします。

教育者としての専門的な学びを修得する上で、卒業時までには学生が身につけるべき資質・能力は、以下の3点です。

1) 多様な子どもを取り巻く現代的課題に対応する力

多様な立場、考え方の存在を認め、強い意志と情熱および教育者としての使命感や責任感を持って、子どもの個々のニーズに共感的に理解し、子どもの学びと育ちに関わり、取り組むための「子ども理解」に関する専門性を獲得する。

2) 個別最適な学びと協働的な学びを実現する専門的な知識や技能と実践力を追究する力

教育の場において、子ども一人一人の興味・関心を引き出し、子どもの課題に応える「個別最適な学び」と、個の学びを小集団や全体の場で広げたり深めたりする「協働的な学び」を実現できる「教科・領域の専門性」と、ICTや教育方法を効果的に取り入れた「実践的指導力」を獲得する。

3) 変化する社会、学校等で活躍するための包括的な協働の力

急激に変化する環境の中で、すべての子どもの可能性を引き出すために、チームの一員として、多様な人々と協働で課題解決を図り、持続可能な解決を遂行する力や種々の活動を繋ぐ横断的なファシリテーション力を醸成する。

以上、教育者として未来を担う子どもの成長と発達を支援し、ケアするために、「子ども理解の専門性」と「教科・領域の専門性」を身につけ、「協働の力」を発揮する教育者の養成に取り組みます。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

【教育課程の編成】

教員は子どもの将来を担う重要な存在であることを学生が自覚し、卒業後、教育現場において、教科指導、生徒指導等の職務を担うことができる教員として必要な資質・能力を身に付け、生涯にわたって「学び続ける教員」になることを重要課題として教育課程を編成します。

教育学科学校教育コースでは、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校の各学校種の教員および養護教諭の養成を目的としたカリキュラム編成を行います。

小学校の教員養成では、小学校教諭として必要な基礎的・専門的知識や技能の修得により、小学校教諭一種免許状を取得します。また、より深く、子どもや子どもを取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、幼稚園、中学校・高等学校（英語・数学・理科）、養護教諭、特別支援学校のいずれかの教員免許状取得により、専門的知識や技能を基に、校種間で生じる問題への対応や中高の学習を見通した専門的な学習指導など、現場の多様な課題に対応できる専門性の高い小学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。

中学校・高等学校の教員養成では、「英語」「数学」「理科」の中学校・高等学校教諭一種免許状を取得します。また、生徒の成長過程や生徒を取り巻く社会の多様なニーズに応えられるよう、隣接学校種として小学校教諭一種免許状の取得により、現場にて幅広い課題に対応できる中学校教員・高等学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。

特別支援学校の教員養成では、小学校教諭一種免許状の取得と合わせて、特別支援学校教員としての専門的知識や技能を学び、特別支援学校教諭一種免許状を取得します。様々な環境の中で成長・発達する児童・生徒の学習課題についての理解を深め、現場の課題に対応できる特別支援学校教員の養成を目標にカリキュラムを編成します。

養護教諭の教員養成では、養護教諭としての専門的知識や技能の修得により、健全な成長・発達を支援する養護教諭一種免許状を取得します。さらに小学校教諭一種免許状を取得し、様々な環境の中で成長・発達する児童・生徒についての理解を深め、子どものいのちと未来を護る養護教諭の育成を目標にカリキュラムを編成します。

【教育内容】

教育学科学校教育コースでは、ディプロマ・ポリシーに基づく教員としての専門的知識および実践力、指導力を備えた人材を育成するため、次の5領域『教職一般領域』『初等教育領域』『コース共通領域』『選修領域』『教育・子ども理解領域』として教育内容を構成します。

<全校種の教員免許状取得において必要な基礎科目>

- 1) 教員としてのキャリア形成を行う科目として「学校教育入門」を配置します。教員をめざす学修の全体像を把握し、身につけたい専門性と未来の教師像を明確にします。
- 2) 『教職一般領域』では、教育学の基礎理論や実践論等を学び、教職の意義や教員の役割などを理解する「教育原論」「特別支援教育」「教育心理学」「教職論」等の科目を配置します。

<自己の学びを振り返り、問い直し、深め豊かにする科目>

- 3) 『コース共通領域』では、教育現場と大学での学びとの往還により、豊かな人間性と確かな実践力・指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップⅠ・Ⅱ」などの科目を配置します。また、担任制で実施する1年次の「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（教養教育科目）、2年次の「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」にてアカデミックスキルの基礎力を培い、3年次の「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」、4年次の「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」にて、同じゼミ担当教員が2年間継続して「卒業研究」などの指導を行います。

<専門教育に関する科目>

[小学校選修][英語選修][数学選修][理科選修][保健教育選修][特別支援教育選修]の6選修について、教員免許状の取得に関わる学問領域の専門的知識や技能を習得します。

- 4) [小学校選修]では、小学校課程の教科教育に関する基礎理論や方法論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教科教育法」などの科目を配置します。また、幼稚園教諭一種免許状取得に必要な科目や専門性を高める科目の履修も可能です。
- 5) [英語選修][数学選修][理科選修]では、中学・高等学校の教員養成に必要な科目として、修得する各教科に応じた「専門必修科目」、「専門選択科目」「教科教育法」などを配置します。
- 6) [保健教育選修]では、子どもの多様な健康課題について考え、健全な成長発達を支援するため、「学校保健」「解剖生理学」「学校看護学」など、養護教諭をめざす上で必要な専門的科目を配置します。
- 7) [特別支援教育選修]では、特別支援教諭をめざす上で必要な「特別支援教育概論」「知的障害教育論」などの専門的科目を配置します。また、特別支援学校教諭一種免許状の取得には、小学校教諭一種免許状の取得が必要です。

＜変化する社会の中で生じる多様な教育課題に対峙するための関連科目＞

8)『教育・子ども理解領域』では、変化する社会、学校・保育施設等における現代的な教育課題や多様な子どものニーズを理解し、成長と自己実現を支援するための子ども理解を深める科目として、「子ども理解と人権」「インクルーシブ教育の理論と方法」「ICTと教育データの活用論」「プログラミング教育」などの科目を配置します。

(2) 教育方法

- 1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追究に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、協働での学習活動や双方向的な授業を展開します。
- 2) 公式や文法など単に覚えるのではなく、当たり前と思っていたことは“なぜ”そうになっているのか、“なぜ”それが必要なのかを学生自身が理解を組み立て、掘み取っていけるように、学生個々が多様な方法や側面から“なぜ”にアプローチして考えを深めます。
- 3) 情報化の進展に対応するため、ICT アクティブ・ラーニング教室、ICT 模擬授業教室、電子黒板、タブレット、インターネットや視聴覚機器等の活用を促進し、実践力の育成に向けた模擬授業の反復練習に取り入れるなど、学習方法の改善に努めます。
- 4) 学校での実践的な学びを推進するため、1年次に「ハロースクール」、2年次に「インターンシップⅠ・Ⅱ」を経験した後、3年次の「教育実習」「養護実習」「インターンシップⅢ(選択)」に参加します。小学校・中学校・高等学校・特別支援学校での教育活動に積極的に関わり、学びを深めます。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。
- 3) 評価の観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修の状況や課題追究の過程をパフォーマンス評価します。
- 4) 授業・教育実習(小・中・高・特別支援)・養護実習・介護等体験などの課外活動を通して、教育者として必要な資質・能力や適性を評価します。
- 5) 学修ポートフォリオ(目標・自己評価、教職履修カルテ等)および上記2)～4)等をもとに、担任教員との面談等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学習方法の改善を図る形成的アセスメントを推進します。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

教育学科学校教育コースは、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 教育に対する強い情熱を持って専門的に学びながら、子どもの多様なニーズへの共感的理解をもとに、一人一人に応じた支援やケアを重視して教育に取り組む熱意溢れる人

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育についての学びや実践を、子どもの発達を総合的に見通して取り組むことが出来るように、広い視野から現代の教育課題を捉え、教育活動にいかしていこうと努める人

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力・表現力〕

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働の力を発揮しようと努める人。また、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身につけようと努める人

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕